

## 6月の学習会の案内

平成27年6月2日

今年度も、気が付けば3ヶ月目に突入しました。暑さも本格的になり、子どもたちも疲れやすい時期だと思います。附属小学校の1年生は今、アサガオのお世話をがんばっています。毎朝登校するとすぐに植木鉢をのぞきこみ、「先生、葉っぱが増えてジャングルみたいになってるよ!」「ふわふわの葉っぱとつるつるの葉っぱがあるよ。ふしぎ!」などすてきな声が聞こえてきます。植物の生長を喜ぶ子どものように、子どもの成長に日々喜びを見出す自分であり続けたいと思う今日この頃です。

さて、語る会では来年に行われる日本国語教育学会西日本集会へ向けて準備を進めていく段階に入っています。語る会のメンバーを3つのグループに分けて研究を進めているところです。お忙しいところかとは思いますが、ぜひ多くの先生方に参加いただけるとありがたいです。よろしくお願ひします。

新たに参加を希望される先生へ

本学習会では、いつでも参加をお待ちしています。「初めてなのですが」と言って会場にきてくだされば、喜んで案内させていただきます。どうぞ気軽にお越しください。お待ちしております。

日時	平成27年6月13日(土) 9:30~12:00
場所	岡山大学教師教育開発センター <b>東山ブランチ2F 授業研究室</b> TEL(086)272-0511 FAX(086)271-3455
連絡先	小出 真規(こいで まさき) TEL 090-5704-7339 m-koide@okayama-u.ac.jp (学校パソコン) m.koide.freewill@icloud.com (携帯メール) ※小出の携帯メールアドレスが変更になっています。
内容	西日本集会へ向けての教材研究および授業構想(グループごとに内容が異なります)
＜お知らせ＞	
※ <u>駐車場について</u> 東山ブランチの駐車場をお使いください。	
※ 会費納入 まだの方は新年度の年会費をお願いします。2000円です。	

## 5月の学習会の報告

5月の語る会は、「生き物は円柱形」（5年生教材）の教材研究を行いました。

### 田中先生より

○日本国語教育学会会長の倉沢栄吉先生が1月24日に亡くなられた。104歳になる前日のこと。

100歳まで学会で講演され、2代目の会長として40年近くご活躍されていた。

日本国語教育学会を柱としながら、現在の国語教育に影響を与える大きな業績をのこされた。

○今考えている、おもしろ見つけや丸ごと読みでは、反応する力が大切になってくる。特に丸ごと読みでは、総合的な力が運用しやすい。反応する力を学習の中でプラスして育てていきたい。持っている力を発揮するだけにとどまらず、新たな力を獲得できるようにすることが大切。倉沢先生がのこされた国語の力を受け継いでこれからの国語教育を考えていきたい。

### 小川先生より

○今回の語る会には30人近くもの参加者がいる。この会は5人程度からスタートした会。それが30人近くにもなり、嬉しく思う。今年度は、学会に向けて動いていこうと考えている。学習会の充実を目指したい。つながりをキーワードにして研究を進めていく。

#### つながりの種類

①学習者同士のつながり…学び合い（学習者の学びを集約していく、読み手の自立を目指す…などの視点で。教師がどのように見取っていくかも考えていきたい。）

②学習活動のつながり…言語活動の充実、単元構想の開発、学習形態 など

③発達のつながり…低・中・高の学習の系統性、活用型の学力を育てるには、反応の発達段階の適時性 批判的な読み・共感的な読みについて など

#### 方法

3つのグループに分かれるのはどうか。ある程度グループのメンバーを固定して研究していく。

進行・まとめなどの役割を決める。

教材もグループごとに良いものを選んで進めていく。

### 田中先生より

○学会に向けての実行委員会があったが、つながりの種類については、まだ確定していない。最終的に5つのつながりになりそうだが、しばらくは、この会では3つのつながりを考えて研究していくようにしたい。

## グループごとに分かれて教材研究・発表

### ●①グループ(学習者のつながり)

・読者は初読の段階で、「生き物は円柱形だ」「強くて速い」というところは読み取ってくる。しかしその中で、「多様な中から共通性を見出すことのおもしろさ」という筆者の最後に伝えようとしている内容、価値に迫らせたい。これは、「身近なところにあるものへの新しい見方に気付く」ことにつながる価値。これに気付かせるような学習を展開したい。

・感性的な反応から筆者反応（筆者の表現の工夫への反応）へジャンプする仕掛けがたくさんある教材。題名読みをしたり、本文の2行だけを初めに会わせたりするなどの文章の会わせ方の工夫が考えられる。

・この文章は、1段落で問いを顕在化することができる。そうすることで、批判的な読みにもつなげるのではないか。

## ●②グループ(学習活動のつながり)

### ①どんな見方や考え方が身に付くか

- ・多様な中に共通性を見つけるおもしろさ、その理由を考えるおもしろさ
- ・一見多様な生き物にも共通性があるということのおもしろさ、じっくりとものを見つけることの大切さ
- ・本当にそうなのか？と読むが、それをなるほどと思わせる論法
- ・新しい説明文のタイプ（筆者が前面に出ている説明文）

### ②どんな言葉の力を身に付けることができるか

- ・文末表現などの書きぶりの工夫
- ・文章構成、論理の展開

### ③これを書いた意図（どういう背景を背負っているか）

- ・キーワードは「多様性」と「共通性」
- ・子どもの実態から…じっくりと友達を見つめる、相手をよく見よう、もっと知ろう（指導はしていないが、素地として感じ取らせたいこと、哲学として大切）
  - ・グローバル人材の育成が求められている。思考の仕方。
  - ・今の社会は多様性や個性を認めすぎているのではないか。答えがない中で、よりよい社会をつくっていくには、「みんなちがってみんないい」だけでは問題は解決できない。多様性を認めながらも共通性を見つけていく過程が大切。
  - ・一方向だけでなく、いろいろな方向から物事を見ていく。

以上の①～③を受けて、三次は以下のように進められる。

- ・身の回りのもので、再度共通性を見つけてみる活動
- ・本川さんのおもしろさに目を向けて、本川さんの他のいろいろな本を読んでいく活動
- ・本当にそうか、と批判的に読んでみて、本川さんの主張を確かめる活動 など

## ●③グループ(発達のつながり)

- ・筆者が全面的に出ている表現や構成のおもしろさがある教材
- ・「おもしろい」「なるほど」という感性的な読みから出発できる。  
低学年は「なるほど」という共感的な読み、中学年では「同じか、違うか」といった批判的な読み、高学年では、批判的な読みを通して、深い共感に到達するような読み…など、読み方の発達差を考えることができた。
- ・問いと答えをの意識する  
低学年では問いと答えに反応すること、中学年では問いを顕在化すること、高学年では筆者が一番伝えたいことを読み取ること…など、問いと答えを意識することでも発達差が見られる。

### 小川先生

- ・次からは、グループごとに内容を決めて研究していくようにする。
- ・「言語を通して生きる力とどうつなげるか」を課題にしていきたい。文章構成や表現の工夫にプラスして、人間教育ができるようにも考えていきたい。

### 田中先生

- ・光村の教材から3つ程度取り出して研究していくのはどうか。
- ・学び合いが成立するとは、どういうことか。同じような意見では深まらない。探究的対話をすることで学びが深まる。「私もそうです」という同意ではなく、見方のちがう意見・対立によって話し合いは深まる。